

令和2年度 第2回飯山市美術館運営協議会 会議録

- 開催日 令和3年2月26日(金) 午後3時30分～5時00分
○開催場所 飯山市公民館101会議室
○参集者 委員：廣靖彦(会長) 丸山公人(会長職務代理) 吉越隆師 上海一徳 西澤直樹
森崎鉄兵
※2名欠席
市側：長瀬哲(教育長) 桑原雅幸(文化振興部長兼美術館長) 井端伸介(美術館係長)
木村友子(美術館職員)

1 開 会

2 あいさつ

会 長： 世の中はコロナ禍で何もかもが思うようにならない状況がありますが、そういう中であって飯山市は感染者も少なく済んでいると思います。

昨年から栄村の中学校で週一日だけ授業を行っています。用事があって去年の夏に大阪に帰っ帰ったのですが、2週間は学校に来ないでほしいと言われ、熱もないし体調が悪くなくてもそのようなことであるから結構大変な状況でした。

そのような中、美術館はいろいろ努力されて行事もやっていただきましたし、皆様のご協力もいただいたと思っています。これからも大変な状況は続くと思いますが、ご協力をお願いしたいと思います。

教育長： 今年度はコロナのためにいろいろな行事が中止や延期になってしまいましたが、令和3年度は、まず、一番大事な正受老人三百年遠諱の特別展、そしてもう一つは滝澤天友という飯山仏壇の一番根幹に関わるような彫刻師の本当の意味での顕彰を確実に行うことが今年度の行事の要になるのではないかと思います。

平素の常設展についてはいろいろな方が見られますので、小規模ながらよくやっているというのが私の実感です。

正受老人の特別展は是非子どもたちに見てほしいと思います。令和元年度に開催した県の美術館の巡回展では素晴らしい作品がたくさん展示されました。しかし、子どもたちが見に来てくれなかったのが今でも残念に思っています。子どもたちが良いものに触れる機会をこれからもつくっていきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

3 自己紹介

4 協議事項 ※委員からの主な質問、意見及び事務局の回答等

(1) 令和2年度事業について(報告)

事務局： (次第と資料のとおり説明)

委 員： 令和元年度の入館者数が5,277人そして今年度が2,082人で今年度の入館者数が3,000人くらい少なかったのはコロナが原因ですか。

事務局： 令和元年度の約5,000人という入館者数は今までの中で十分に落ち込んでしまった数なのでコロナの影響だと思います。飯山市美術館の入館者は、受付で市外の方かどうかを確

認してはいませんが、市外の方が多いと思われます。やはりコロナで市外県外からの往来が出来ない状況でしたので、コロナの影響が大きいと考えています。

会 長： 妻が人形館のボランティアをしています、週に二日くらい休館日を設けるとかといった話も出ていると聞きました。

委 員： 毎年、企画展を開催して素晴らしい運営をしていると思います。

今の所蔵品の様子をご紹介いただければ、常設展などでのそれらの活用について考えやすいと思うので、先々用意してもらいたいと思います。

事務局： 所蔵作品全体の状況がわかるリストやそれぞれの作家の代表的な作品を掲載したものをなるべく早く準備したいと思います。

会 長： 大阪でずっと高校の美術教師をしていました。年間に一回は必ず美術館に行って感想文を出させるという苦肉の策をとっていました。一回でも入ったことがある人にとってはどうということはないですが、入ったことがない人にとってはちょっと行きにくいというのがあると思うので、そういうことが可能であればですが、何かの機会にあわせて、例えば小学生が往復で1時間、館内で1時間の合わせて2時間くらい取ってもらえるようにできればと思います。いろいろ事情が違うので簡単にはいかないと思いますが。

(2) 令和3年度事業計画(案)について ※委員からの主な質問、意見及び事務局の回答等

事務局： (次第と資料のとおり説明)

委 員： 正受老人の展示作品は何点くらい集まりそうですか。

事務局： 現在予定しているのは正受庵所蔵の寺宝から約50点、それ以外のところから3、4点くらいをと考えており、全部で50数点を想定しています。この点数で展示室のなかがおおよそ埋まります。

委 員： この4月から県立の立派な美術館が開館しますが、長野県の北から南までの多様性を有した文化を大切にしなければならない立場もあるので、他の館との連携を図ってほしいと思います。作品を交換するとかそういうことではなくて、飯山市美術館にはこういう特徴があるということをお互いに協力関係を持って将来県内の美術館全体を良くしていきたいと思います。ここは県の北端で雪国山国の特徴や文化を背景にしか生まれなかった芸術家もいらっしゃると思います。それは逆に小さな小舟であっても宝物だと思います。

展示活動や収集活動、発表のための調査もされていると思いますが、この地域特有な文化の集積している場所という位置づけがされると思うので、是非、将来の構想の中に県立美術館との協力関係をつくるということ、今もやっておられることは承知していますが、向こうからの呼びかけの方が多いので、われわれとしてもどうだという線を出していただければと思います。

事務局： 信濃美術館との連携とか他の美術館との連携した行事は全くなくはないと思いますが、現実的には非常に少ないと思います。全くつながりがないかというところではなく、長野県博物館協議会という組織があり、信濃美術館と県立歴史館がとりまとめを行い、総会から始まり、各種研修会を開催することがあります。年に5回もありませんので、関係を絶やさないようにしていきたいと思います。

委 員： もう少し積極的にやりたいです。経費もかかるし人的体制も必要なので、おっしゃると

ころからだとは思いますが。常設展示のインターネットによる全国配信はさっそくやれるのではないかと思います。美術館の展示の部門とか収集の部門とか研究調査、常にいろいろ部門が分かれているので、そういう専門家が育っていく中で必要な相談が2、3年経てば可能になってくると思いますので、そういうところの協力関係、もちろん巡回展もありますが。

委員： 4月の17日と18日は市民芸術祭の展示を行うと予定していただいています。11日の舞台発表は無観客で行う予定になっているようですが、展示の方ではお世話になりますのでよろしくお願いします。

委員： 展示作業を行う日の方が密にならないように注意が必要だと思います。

会長： コロナはこのまま順調に減っていけば良いが、まだまだ分からないような気がします。

(3) 令和4年度以降の企画展等について ※委員からの主な質問、意見及び事務局の回答等

事務局： (次第と資料のとおり説明)

※特に意見等なし

(4) その他 ※特になし

5 その他

(1) 委員の任期について

事務局： (今年度末で任期満了になること、また今後、団体からの推薦等をお願いする予定であることを説明)

(2) 次回運営協議会開催について

事務局： (次回の協議会は令和3年5月下旬を予定していることを告知)

6 閉 会